

## 2019年度学力試験問題の「出題意図」・「評価ポイント」について

小論文 【専門学科・総合学科卒業生入試】		
出題意図	評価ポイント	
<p>最近、憲法改正の議論が盛んになっている。選挙権年齢が「18歳以上」へと引き下げられた現在、これから大学で学ぼうとする者にとっても、この問題は無関係ではいられない。</p> <p>こうした状況のなか、筆者は憲法改正とは何かを改めて説いている。本問を通じ、まずは、憲法改正規定は何のために存在しているのか、その意義を熟慮してもらいたい。</p>	問1	<p>憲法がまったく改正できないことにより生じると考えられる問題点を指摘することで、憲法改正の意義を明らかにしていること。憲法には安定性、継続性が求められるが、しかし社会状況は絶えず変化している。その両事情の関係どう捉えるかを意識する必要がある。</p>
	問2	<p>・憲法改正手続を緩和することによって生じる問題点を指摘していること。憲法改正のための手続にはどのような意味があるかを考える必要がある。この点は、問題文の中からも見出すことができる。指摘すべき問題点の例としては「憲法改正のために規定された手続は、国民が各種の憲法攻撃に含まれた問題を熟慮し、憲法改正に踏み切るかどうかを検討するための「時」を稼ぐ「間」を設けたものであるが、その手続が緩和されれば、国民が熟慮する時間が損なわれるおそれがある。」</p> <p>・以上の問題点をふまえて、自分の考えとそこに至る理由を論理的に明記していること。</p>